

## 第2回 奥州市地域医療検討会議

日時 令和8年6月22日（月）

午後6時30分から

場所 奥州市役所 7階 委員会室

### 次 第

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

(1) 今後の検討スケジュールについて

(2) 将来の人口推計と医療需要の変化について

4 その他

5 閉 会

奥州市地域医療検討会議 名簿

(敬称略)

奥州市	市 長	ごうこん 郷右近	ひろし 浩
奥州医師会	会 長	ほんだ 本田	けんいち 健 一
岩手県立胆沢病院	院 長	すずき 鈴木	としろう 俊 郎
岩手県立江刺病院	院 長	すずき 鈴木	ゆう 雄
医療法人清和会 奥州病院	院 長	さとう 佐藤	ただお 直夫
社団医療法人啓愛会 美希病院	院 長	いづつ 井筒	ひろと 大人
奥州市医療局総合水沢病院	院 長	ゆ さ 遊佐	とおる 透
奥州市医療局まごころ病院	院 長	いとう 伊藤	まさひろ 正 博

【オブザーバー】

岩手県奥州保健所	所 長	もりや 森谷	としき 俊樹
岩手県保健福祉部 医療政策室		担 当	職 員
岩手県医療局 経営管理課		担 当	職 員

## 今後の検討スケジュール（各会議での検討テーマ）

## ◆ 第2回会議（6月22日）

テーマ	① 今後の検討スケジュールについて
内容	議論の順番、検討テーマの設定などの進め方について、出席者に確認していただく。
テーマ	② 将来の人口推計と医療需要の変化について
内容	事務局から市又は全国の推計データ等を報告し、出席者から将来見通しなどに関する意見交換をいただきながら、深刻な人口減少や高齢化を背景とした医療の担い手や医療需要の減少のほか、新たな変化や需要などについて共通認識を深めたい。

## ◆ 第3回会議（7月第2週頃）

テーマ	入院機能の役割分担と連携について（案）
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各病院の入院機能（急性期、回復期、慢性期）の状況、他の病院との連携の状況、各病床に余裕がどの程度あるのか等について、各病院から報告をいただきながら、現状把握を深めたい。</li> <li>上記を踏まえ、現時点の役割分担と連携の状況に関する認識や、将来の病床数の動向や過不足が生じる病床機能の予測などについて共通認識を深めたい。</li> </ul>

## ◆ 第4回会議（8月第1週頃）

テーマ	救急機能について（案）
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急対応に関する対応状況や余裕度などについて、各病院から報告をいただきながら、現状把握を深めたい。</li> <li>救急機能に関する現時点での問題点や今後増加が見込まれる高齢者救急に対する懸念、これらの課題解決などについて、共通認識を深めたい。</li> </ul>

## ◆ 第5回会議（8月第5週頃）

テーマ	中間とりまとめの確認について
内容	これまでの成果を一旦整理し、これまでの議論の内容と齟齬がないかなどについて出席者の確認と意見をいただきながら、とりまとめを行いたい。

## ◆ 第6回会議（9月第3週頃）

## ◆ 第7回会議（10月第2週頃）

## ◆ 第8回会議（10月第5週頃）

} 外来、在宅医療、小児科その他の診療科、  
市立病院の将来の在り方 など

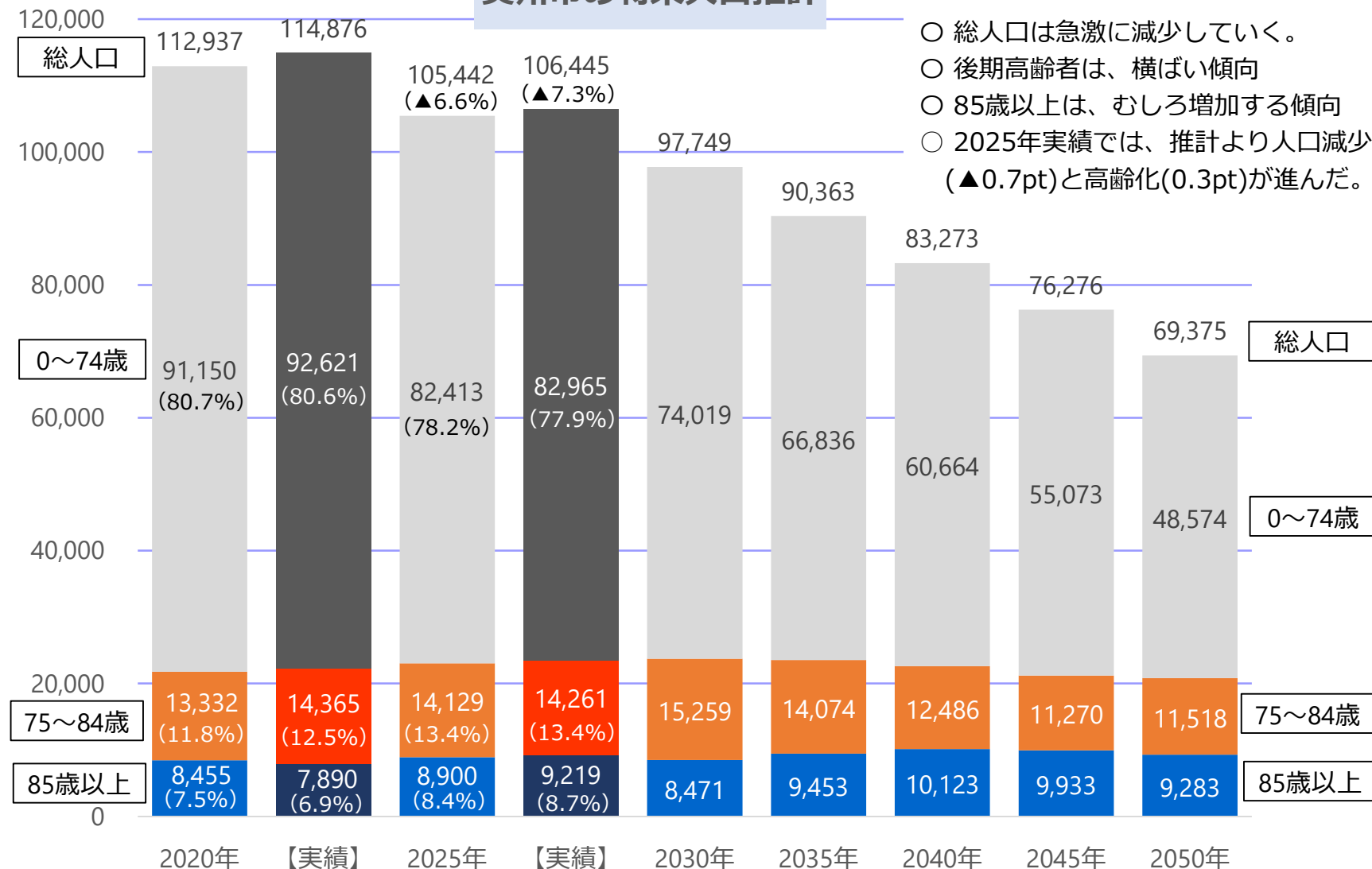
## ◆ 第9回会議（11月第3週頃）

最終とりまとめ

# 人口推計と医療需要の変化について

奥州市 健康こども部 健康増進課

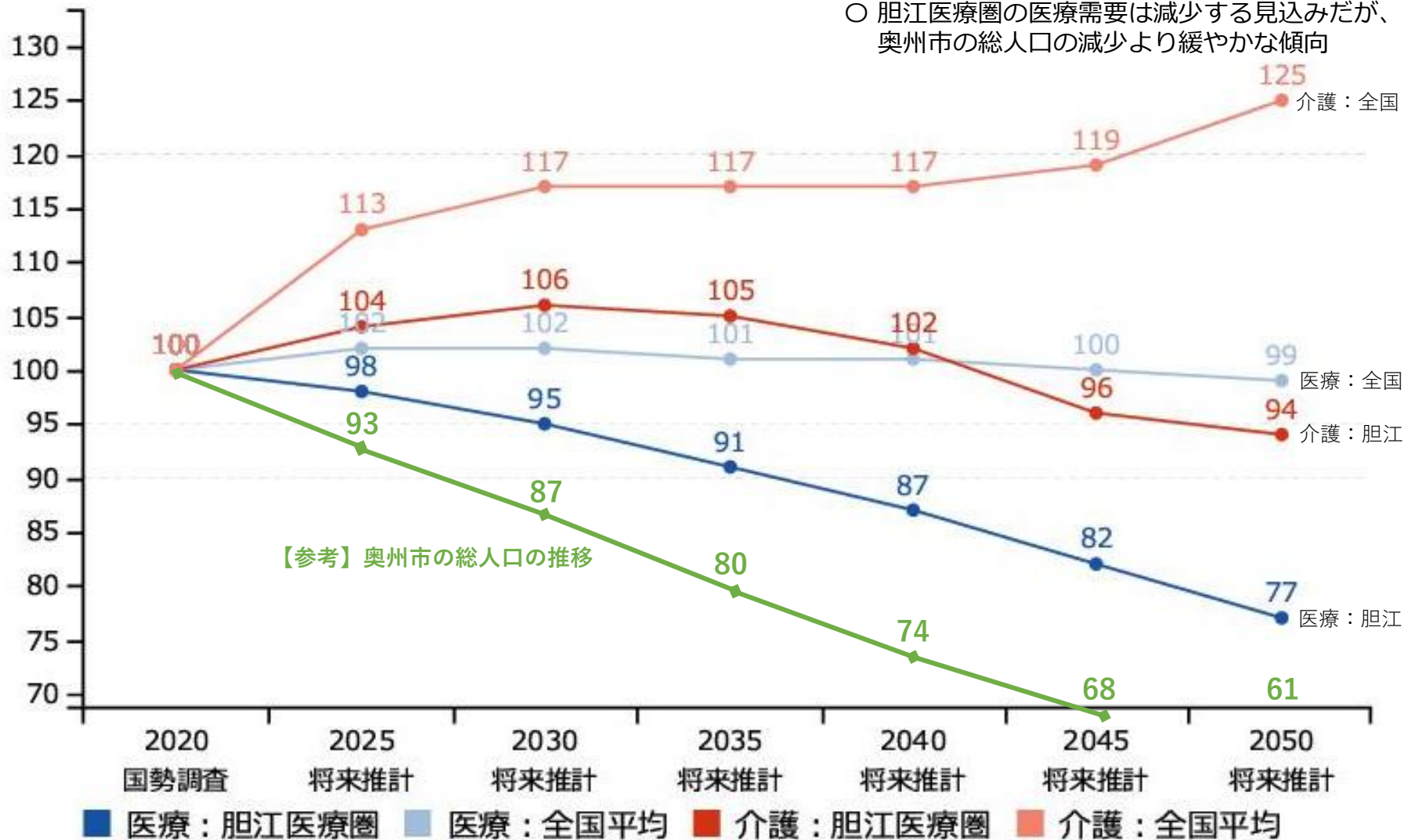
## 奥州市の将来人口推計



- 総人口は急激に減少していく。
- 後期高齢者は、横ばい傾向
- 85歳以上は、むしろ増加する傾向
- 2025年実績では、推計より人口減少 (▲0.7pt)と高齢化(0.3pt)が進んだ。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（R5推計）」並びに2020年9月30日及び2025年9月30日基準の奥州市住民基本台帳データより作成

## 医療介護需要予測指数（2020年実績=100）



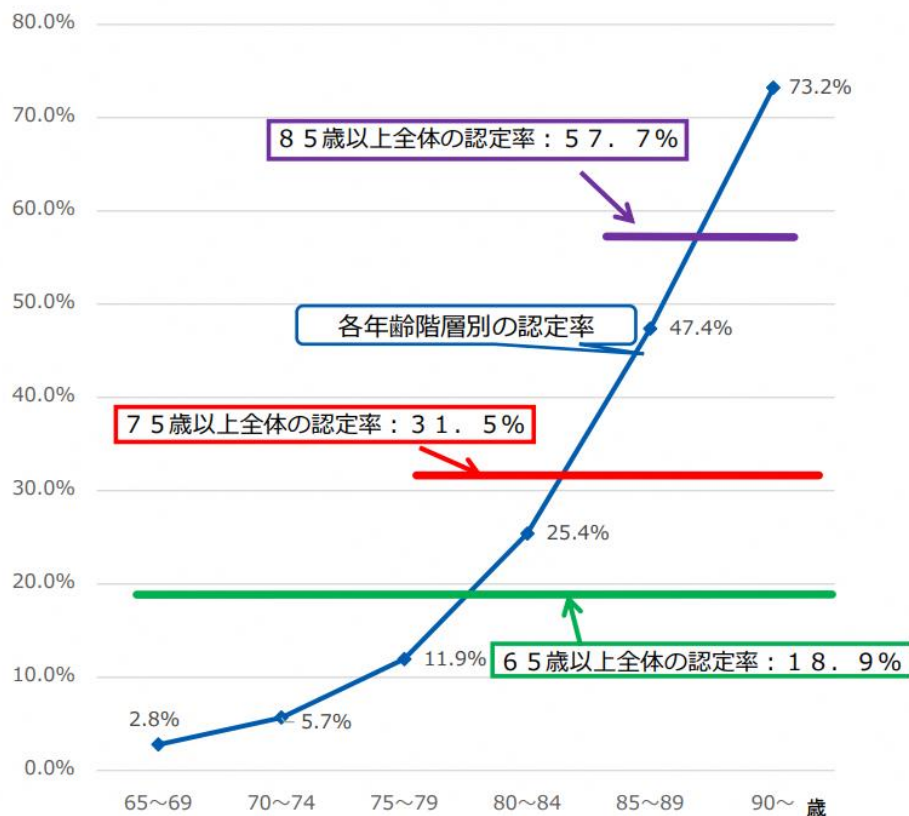
出典：地域医療情報システム（日本医師会）及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（R5推計）」より作成

## 医療需要の変化④ 医療と介護の複合ニーズが一層高まる

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1 (一部改)

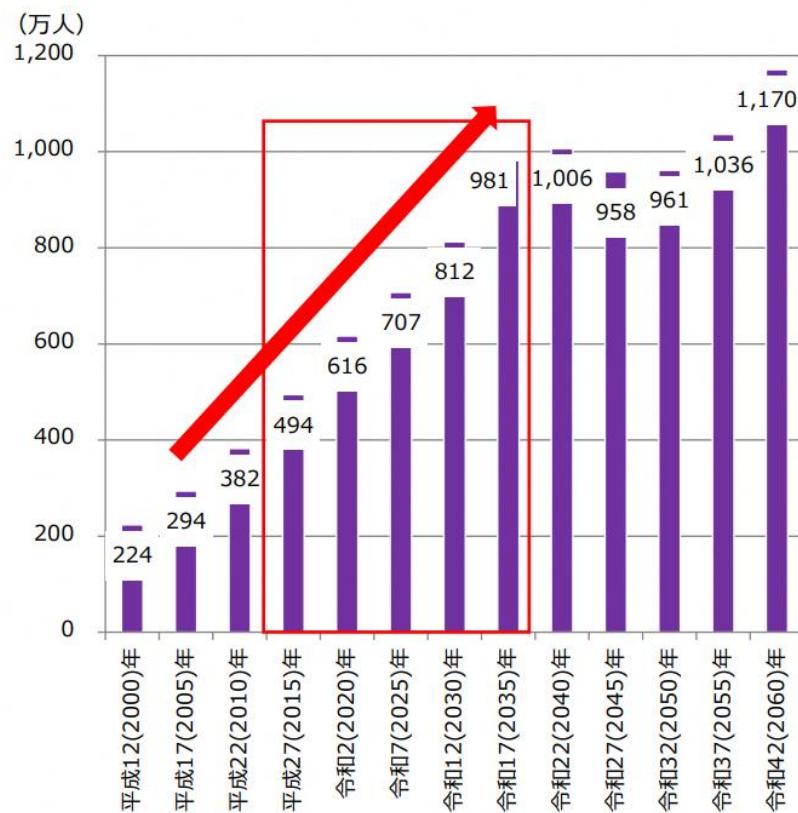
- 要介護認定率は、年齢が上がるにつれ上昇し、特に、85歳以上で上昇する。
- 2025年度以降、後期高齢者の増加は緩やかとなるが、85歳以上の人口は、2040年に向けて、引き続き増加が見込まれており、医療と介護の複合ニーズを持つ者が一層多くなることが見込まれる。

### 年齢階級別の要介護認定率



出典：2022年9月末認定者数（介護保険事業状況報告）及び2022年10月1日人口（総務省統計局人口推計）から作成

### 85歳以上の人口の推移



(資料) 将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(令和5(2023)年4月推計) 出生中位(死亡中位)推計

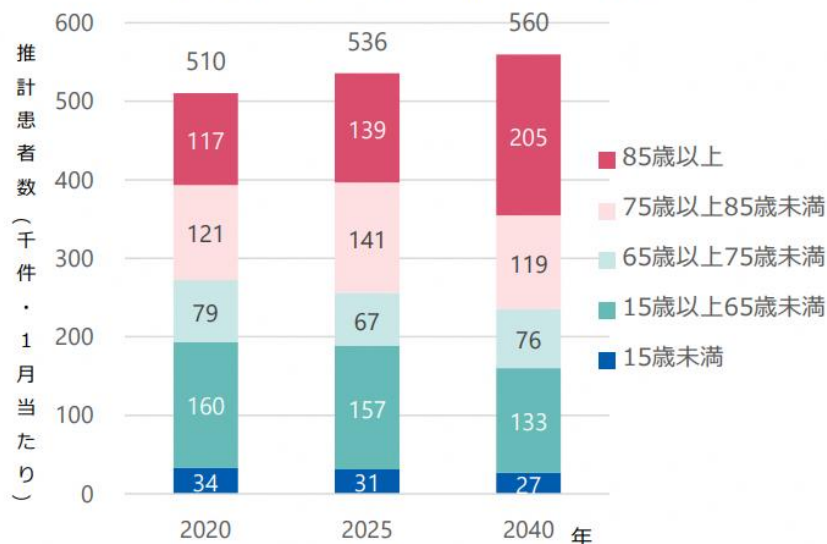
2020年までの実績は、総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳人口を按分補正した人口)

## 2040年の医療需要について

医療・介護の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者が増加することが見込まれる。2020年から2040年にかけて、85歳以上の救急搬送は75%増加し、85歳以上の在宅医療需要は62%増加することが見込まれる。

### 救急搬送の増加

年齢階級別の救急搬送の件数の将来推計



2020年から2040年にかけて、75歳以上の救急搬送は36%増、うち85歳以上の救急搬送は75%増と見込まれる。

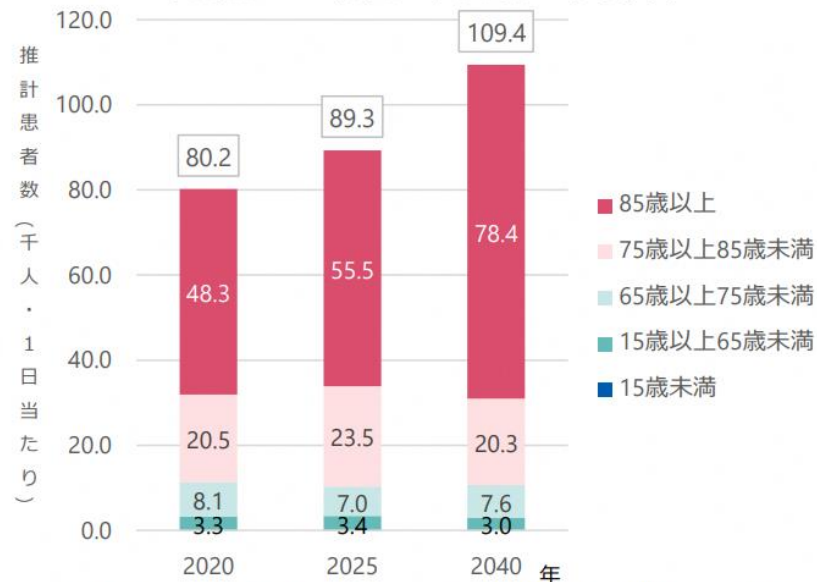
資料出所：消防庁データを用いて、救急搬送（2019年度分）の件数を集計したものを、2020年1月住民基本台帳人口で把握した都道府県別人口で除して年齢階級別に利用率を作成し、地域別将来推計人口に適用して作成。

※ 救急搬送の1月当たり件数を、年齢階級別人口で除して作成。

※ 性別不詳については集計対象外としている。また、年齢階級別人口については、年齢不詳人口を除いて利用した。

### 在宅医療需要の増加

年齢階級別の訪問診療患者数の将来推計



2020年から2040年にかけて、75歳以上の訪問診療の需要は43%増、うち85歳以上の訪問診療の需要は62%増と見込まれる。

出典：厚生労働省「患者調査」（2017年）

総務省「人口推計」（2017年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」を基に地域医療計画課において推計。

## 2040年に求められる医療機関機能（イメージ）

**高齢者救急の受け皿  
となり、地域への復  
帰を目指す機能**

かかりつけ医等と連携し、増大する高齢者救急の受け皿となる機能

**在宅医療を提供し、地  
域の生活を支える機能**

地域での在宅医療を実施し、緊急時には患者の受け入れも行う機能

**救急医療等の急性期  
の医療を広く提供す  
る機能**

高度な医療や広く救急への対応を行う機能（必要に応じて圏域を拡大して対応）

地域ごとに求められる医療提供機能

**医師の派遣機能**

**医育機能**

**より広域な観点で診療を  
担う機能**

より広域な観点から、医療提供体制を維持するために求められる機能